



# 浄敬寺だより



じょうきょうじ

発行日 令和五年一月一日 第四〇号



冬囲い before&after

↓ 年末法話会

秋彼岸↓

三条別院報恩講↓ ↑ 有縁講→

## 【法語】

善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや。

(中略)

煩惱具足のわれらは、いずれの行にても生死をはなるることあるべからざるを

あわれみたまいて、

願をおこしたまう本意、悪人成仏のためなれば、

他力をたのみたてまつる悪人、

もつとも往生の正因なり。

『歎異抄』三章 真宗聖典六二七項

## 【意識・解説】

「善人が往生するのだから、悪人は勿論のことだ。煩惱を兼ね備えた私たちは、どのような行によっても迷いを離れることができない。それをあわれんで、誰一人漏らさず救おうという願いを起こしてくださった本意は、悪人という生き方しかできない衆生のためであるので、本願の力を頼む悪人こそ、往生の因なのである。」

親鸞聖人の言われた『悪人』とは誰のことでしょうか。

私たちは本能的に正しいことを求めます。どこまでも努力が好きで、悪気もなく自分の常識を正義として他を裁くのが私たちの姿です。自力で握りしめた正義が邪魔をして、本当の願いが聞けない私たちに、念仏申せと呼びかけ続けるはたらきがあります。如来の呼びかけに気付き、申し訳なかった…と頭の下がった私を『悪人』と定義してくださっています。

## ☆巻頭法話『年頭にあたって』☆

以前ご年配の方から、「年を取ると一年の過ぎるのが早い」という言葉をよく聞いたものです。私も昨年古希を迎え、高齢者という括りの中でも中盤戦にさしかかかってきたようですが、若い頃と比べて特段一年が早いとは感じません。それよりも自分には残り時間がどれ程あるのだろうかと考えてしまうことが多くなりました。今年も御門徒、知人、親類、多くのお世話になった方々がお浄土に還っていかれました。決して高齢者とは言えない方の死もありました。それは常々諸行無常の教えをいただいているとは言え、人生の儚さを思い知らされる現実でもありました。高齢化社会は多死時代とも言われ、新聞の折り込み広告に葬儀社の広告を見ることも多く、またテレビコマースシャルでも同様なものをしばしば目にします。葬儀社も多くの葬祭会館を抱えての営業ですので止むを得ない面はありますが、寺側としては少し考えさせられるものがあります。

十月に三女が縁付いている秋田県能代市の嫁ぎ先のお母様が急逝されました。六十四歳という年齢でしたので私たちも衝撃を受けましたが、家内と葬儀に行行ってまいりました。急な話でもあり、また葬儀社も立て込んでいたようで、菩提寺（曹洞宗）の本

堂で葬儀が執り行われましたが、最近では会館での葬儀に慣れてしまっている中で、とても厳かな雰囲気でお参りすることが出来ました。考えてみれば私が子どもの頃はお寺での葬儀はよくあったことのように思います。その後、住宅事情の改善もあって自宅葬に中心が移り、そして近年は葬儀社を使つての葬儀がほぼ百パーセントと言つても過言ではありません。そのような中でもコロナ禍に見舞われたここ数年は家族葬という小規模葬を希望される方が増えたため、葬儀社も家族葬用の会館を競って宣伝しているのは理解できますが、小規模葬を望まれる時代であれば、私はもう一度お寺での葬儀を検討してみたいと思います。近年は病院や施設が中心で、自宅で家族を看取ることが困難な時代ではあります。人生の最後に故人が永年縁を結びお参りをしてきたお寺から送り出していただくことには深い意味があるように思います。このような葬儀が商業化してきた時代を看過してきた私たち僧侶も責任を感じています。益々進む高齢化社会の中で、葬儀の在り方を見直してみることが必要な気がしています。お寺での葬儀についてはどうか遠慮なくご相談いただきたいと思います。

歎異抄に「ひとのいのちは、いずるいき、いるいきをまたずしておわることなれば」とあります。昨

年はいのちの姿を改めて教えられた一年となりましたが、限りあるいのち、いっどうなっていくか分からないいのちであればこそ、仏の教えに出会っていきたくて思っておりますし、御門徒の皆様にとっても寺がそういう場でありたいと願っています。本年もよろしくお願い申し上げます。

合掌

( 住 職 )

## ☆庫裡便り

浄敬寺の日々の出来事から  
坊守の所感をお伝えします。



## ◎御正忌報恩講

准坊守は本山御正忌報恩講に十一月二十五日～二十八日まで出仕してきました。念願がかない初めて坂東曲のお勤めに臨ませていただき、住職も二十八日の御満座に参詣してまいりました。何年前になるのでしょうか、御門徒の皆様と一緒に朝五時の開門と同時に御影堂に入り、前の方の席を確保して坂東曲を参詣したことを思い出しながら、私もライブ配信の二時間の法要をテレビでお参りしていました。次は四月の慶讃法要です。ご一緒にお参りしましょう。参加者募集も最終段階です！

## ◎言葉【その一】

先日百一歳を迎えた方が亡くなられましたが、その方の生前の家族との会話を教えていただきました。

- ・母「優しくしてくれてありがとう」
- ・息子家族「優しさはおめえさんから教わったんだ」
- ・母「長い間お世話になりました」
- ・息子家族「長い間お世話になったのは俺ら家族の方だよ」
- ・ご家族との温かい言葉の交わり合いに私たち家族一同感動しました。

## ◎言葉【その二】

- ・中二、小六、小三の孫達からも幼い頃沢山の可愛い言葉をもたらしましたが、同居の二歳八カ月の孫は、今言葉のシャワーが全開です。
- ・秋の終り窓辺で動かなくなったトンボに気づき…
- ・「トンボしんじやったのかな ほとけさまになったの？ママのところにかえたのかな？」
- ・初雪を見て…
- ・「こりやソリしなくちゃ」
- ・「こりやハクチヨウみにいかなくちゃ」
- ・食事の時、皆と同じコップを持って…
- ・「ちからをあわせてカンパーイ」
- ・イノシシが多く出没している話を聞いて…
- ・「ゆうとくんがイノシシに食べられたらカツカ(母)ににととあえなくなってしまうの？」
- ・言葉によって励まされ、なぐさめられ、出会った言葉によって生きる力をいただく私たちです。大切な言葉に出遇ってまいります。

## ◎お知らせ

一月十三日(金)午前九時五十五分から五分ほどのBSN「新潟の名刹紀行」という番組に、浄敬寺が紹介されます。住職が浄敬寺の歴史などを話しますのでご覧ください。

## ☆二〇二二年後半を振り返って

### ◎秋彼岸（お中日・九月二十三日）法話 住職

真宗は我が身の愚かさを知る道であると教えられています。わが身の愚かさを知らない人間は、いつも自分のはからいが中心の生き方しかできません。古来より、私たちは生死の間にさ迷うものと言われている、ああしたい、こうしたい、こうありたいと思いつつ、現実はあるもならず、こうもならず、で日々を送っています。これを迷いの世界、娑婆の世界というのですが、自らの愚かさ分からない私たちはそれを迷いと思っていないという現実があるのです。お彼岸には、そうした日々の生活を省みて、迷いの世界にあるわが身を見つめ、真実の世界であるお浄土へ思いを致してみたいものです。

### ◎三条別院お取り越し報恩講（十一月八日）

組での団参は企画されませんでした。十一月八日の結願日中に、住職運転の車に乗り合わせて参詣してきました。法要は本山から信教院御鍵役の御参集（\*説明あり）により勤まり、続いて節談説教による法話をお聞きしました。お弁当でのおときも提供され、役員の方から別院の諸殿を案内していただきました。新型コロナウイルスとの付き合いも三年目、対策を講じながら行事も少しずつ回復しております。来年は多くの方々と一緒にお参りできたることを願っております。

\*お鍵役：真宗本廟御影堂の親鸞聖人御木造のお厨子の鍵を預かり朝晩開閉するお役を担う方

\*御参集：本山から地方に向向して法要の導師をすること

\*節談説法：お聖教の言葉に節をつけて法話され、高座という台からお話するスタイルは、落語の起源とも言われる

### ◎有縁講（十一月十七〜十八日）

今年には六名で、聞光寺様の御門徒の方々と一緒にバスツアーにて参加しました。初日は居多ヶ浜記念堂をお参りしてから赤倉ホテルへ。お勤めの後、法話を聞いてから、温泉に浸かり、美味しい夕食をいただけてきました。夜は参加者の皆様とゆったりとした時間を過ごしました。二日目も朝食前にお朝事とご法話があり、帰路には定番のりんご狩りをしてきました。毎年恒例の行事です。ぜひ一緒にしましょう。

### ◎年末法話会（十二月十一日）法話 田澤 一明 師

#### 「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」

来春本山で厳修される宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要のテーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」を講題として法話をいただきました。

「人と生まれたことの意味は何か」ということに対して、仏教の視点と親鸞聖人の視点からお話がありました。先ず誰が「人と生まれたことの意味をたずねていこう」と言っているのかを考えることが大切で、それは初めに「南無阿弥陀仏」とあることから仏からの呼びかけであるということであり、私たちの分別心から生じる「価値のある人生」「価値のない人生」という選別の心ではなく、仏の無分別心として、全てのいのちを平等に受け止める大地の心に立ち返っていくことに意味が見いだされるのではないかとお話しいただきました。また、歎異抄第二章の親鸞と門弟たちとの応答に触れ、親鸞は法然上人から聞いた往生極楽の道を問い聞いていくことしかないことと答えられており、往生極楽の道を問い聞くことは人間の根源的要求、普遍的要求であり、そこにこそ人と生まれたことの大きな意味があるのではないかともお話しいただきました。



☆二〇二三年前半の行事予定（参加お申込み不要です）

5

六月十日（土）『歎異抄』をよむ会 午前九時より

六月二十四日（土） 仏教文化講演会 於 産業文化会館

\* 法話 海 法龍 師（神奈川県横浜市 長願寺住職）

七月二日（日） 浄敬寺夏の法話会 午後一時半～

\* 法話 佐野 明弘 師（石川県光闡坊住持）

七月十四・十五日（金・土） 盆参会（盆内） 午前十時半～

\* 法話・勤行後、両日ともおときがあります

八月六日（日） 夏休みお楽しみ会（子ども会） 午後四時～

八月十三～十六日（日～水） お盆

\* 十三日午前六時～勤行

一月一日 修正会勤行 午前六時より本堂

一月一～二日 年始参

\* 真宗門徒の一年は御本尊へのお参りから始めましょう

一月二十一日（土）『歎異抄』をよむ会 午前九時より

二月十一日（土）『歎異抄』をよむ会 午前九時より

三月十一日（土）『歎異抄』をよむ会 午前九時より

三月十八～二十四日 春彼岸

お中日二十一日（春分の日） 午前十時半～法話勤行おとき

三月二十五日（土）第十組同朋会報恩講 於産業文化会館

\* 法話 一楽 真 師（大谷大学学長）

四月二十四～二十六日 慶讃法要参拝旅行

\* お申し込み締め切り間近です

五月七日（日）報恩講お引き上げ準備会 午後一時より

\* 仏具のお磨き・境内清掃 等

五月十九日（金）報恩講お引き上げ 午前十時より

\* 法話 今泉 温資 師（新潟市）

定例法話会『歎異抄をよむ会』のご案内  
・ 基本的に第二土曜日午前九時より  
・ 内容 『歎異抄』の解説、正信偈のお勤め  
（終了後、ささやかな茶話会あり）  
・ 持ち物 赤本・念珠・『歎異抄』の冊子



# ☆真宗門徒の豆知識

こんな時どうしたらいいの？とのご質問をいただくことがあります。素朴な疑問、皆さんと共有したいと思います。

ちよっくら  
Q&A



Q1、『法話の後に拍手してはいけないの？』

A、拍手はしません。おすすめはお念仏です

素晴らしいお話を聞いた時、自然に沸き起こる拍手。感動を表現するための『拍手』…は世間では当たり前のことでしょう。

しかし、仏教のお話を聞く法話の場合、相手だけを讃えることはしません。法話者が伝えてるのは南無阿弥陀仏のところですよ。引用される経典の言葉や法話者の背景から紡ぎだされるたとえ話は、その時その時異なるかもしれませんが、共通して一番伝えたい内容は「私たちへの念仏（南無阿弥陀仏と申すこと）のすすめ」です。

ですから、ああそうだった…と感動し頭が下がったのなら、お念仏「南無阿弥陀仏」と手を合わせ声に出すことで応えていただけたらと思います。

Q2、『身内にお葬儀があったらお年始のお参りはどうするの？』

A、真宗門徒の一年は御本尊にお参りすることから始めてください。

お待ちしています

身内にお葬儀があった方から、「年始のお参りは行ってもいいのですか？」とお尋ねされる場合があります。真宗門徒はどんな時も御本尊の前に座り、真実の世界から私に呼びかけられた南無阿弥陀仏を聞き、その呼び声にこたえて自らも念仏を申し生活してきました。人生の節目には勿論のことながら、毎日朝晩の勤行をとおして、教えをいただいていたのです。一年の始まりには、御本尊に真向かうことから始めてください。



Q3、『お内仏の打敷はいつかけるの？』

A、特別な時にかけます。特別な時とは…

お内仏の上卓・前卓にかける三角の布を打敷といいます。打敷の由来は、お釈迦様説法される際に、地べたに直接では申し訳ないので、どうぞこちらへ…と布を敷いたことに由来しています。法が説かれる特別な時のお荘厳です。

朝晩お内仏へ向かい、念仏申すのが真宗門徒の日々の生活です。平日には打敷は掛けませんので、特別な日はどんな日のことを表すのでしょうか。

修正会（新しい年を迎える法会）、お彼岸、お盆、親鸞聖人の御命日である報恩講、年忌法事等々です。大事な仏事を新たな気持ちで迎えるためにお荘厳をととのえて、お勤めするのです。



Q4、『お寺にお参りするのはどんな時？』

A、いつでもどうぞ！

お年始は勿論のこと、年中行事以外にも人生の節目にはぜひお参りください。



九月のよく晴れた日、お盆やお正月にはご家族連れ立って寺参りに来られ、夏休み子ども会にも参加されていた方が、成人式の晴れ着姿で訪ねてくださいました。ご家族と一緒に、本堂やお墓をお参りしているところを「これ記事にしてもよいですか？」とお願いして撮らせていただいたのがこの素敵な一枚です。これからも、沢山のご縁の中で出遇われる一つ一つのことを大事に歩んで行かれますよう念じております。

嬉しいこと悲しいこと全部ひっくるめての人生です。七五三も成人式も結婚式もお葬儀も、人生の節目にはぜひお参りください。

# ☆宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年

## 慶讃法要参拝の旅のご案内

昨年より募集をして参りました慶讃法要参拝の旅が、いよいよ申し込み締め切り間近です。

この度厳修される慶讃法要は、阿弥陀堂と御影堂のそれぞれで同時に法要が進行します。これは真宗本廟で勤まる法要の形式としては、初めての事です。なぜこのような形式でお勤めするのか、それは真宗本廟が両堂形式（阿弥陀堂と御影堂の御堂が二つ）であることをあらためていただき直すという意味があります。

阿弥陀堂には中心に御本尊・阿弥陀如来が安置されていて、これは『仏説阿弥陀経』の浄土の世界を表したお荘厳です。その世界にふれる方法として、私たちに南無阿弥陀仏と念仏申すことがすすめられています。この南無阿弥陀仏のいわれを、親鸞聖人の御真影（御木造）の前：御影堂にてあらためて問いたずねることが願われています。

一般寺院とは形式が異なる、本山・真宗本廟の両堂形式。阿弥陀堂の荘厳やお勤めは、私たちにいつでも降り注がれている浄土の世界を表現し、御影堂はその浄土の世界から呼びかけられた南無阿弥陀仏のいわれを私たちが訪ねていくための聞法の道場である…ということの意味を、この機会に明らかにしたいと思うところです。

音響やモニター等の設備が整った現代だからこそできる法要の形ではありますが、このような形をとった願いや意図にも注目していただけたらと思います。



ご希望の方は  
お早めに



# ☆浄敬寺と三条教区第十組役員のご紹介

(二十二～二十三年度)

浄敬寺の運営、そして三条教区第十組（柏崎刈羽地区）の活動・運営にお力添えをいただいている皆さんです。浄敬寺役員に関しては、長らく従事していただき近年交代された方がいらつしやいますので、ご紹介します。（敬称略）

### \*浄敬寺役員

- ・ 責任役員 今井長司
- ・ 総代 吉田 和代
- 佐藤裕幸
- 吉田 巖・ 下原地区世話人兼
- 今井富二夫
- 小林茂・ 春日地区世話人兼

### ・ 世話人

- 渡邊毅・ 桜木町
- 佐藤敏・ 平井地区
- 佐藤市郎・ 平井地区
- 丸山陽子・ 中田地区（二十二年度）
- 夏目正幸・ 中田地区（二十三年度）

### \*三条教区第十組 柏刈同朋の会協議会

- ・ 会長 渡辺 正純
- ・ 監事 桑原 源一

### \*三条教区第十組推進員連絡協議会

- ・ 副会長 原美智子



子ども達の誕生日にプレゼントを届けてくださった御門徒の方がお浄土に還られました。近年は図書カードをいただき、子ども達も大変喜んで、自分の好きな本を選んでいただくことを思いだします。

誕生日プレゼントといえば、親である私も、何かその時に必要なものをプレゼント（高額でない）しています。幼い頃は、子どもの成長に必要と思った物を「これがいいのではないか？」と誘導して、絵本や知育玩具などをプレゼントしたりしていました。ですが、近年はすっかり自分の欲しいものになりました。しかも、最近では、弟の誕生日プレゼントを兄が誘導するようになっていきました。兄が勧めるプレゼントは、自分も楽しく遊べるテレビゲームソフトが有力です。自我が芽生える一々に、「楽しさを求めること」と「楽」があります。人間が本能的に「楽」を求めることを、子どもの誕生日プレゼントの選択から実感させられます。

親鸞聖人は「楽」の読み方は二つあると書いています。一つは、「楽しい」という読みです。私たちが普段求める「楽」です。もう一つは、「静か」と読むとあります。こちらは仏様が求める「楽」です。私たちの「楽」、楽しみは、叶ってしまうとその喜びは薄れますが、仏様の「楽」は静かで在るがゆえに、尽きることはないのです。さらに親鸞聖人は極楽について、極楽とは「極めて静かと読む」と書いています。阿弥陀様の極楽、お浄土に出遇った喜びは、私たちの薄れる喜びとは違い、尽きる事が無いのです。

親鸞聖人が「プレゼントを貰っても喜びは続かない」と言ったとしても、やはり、子どもたちにとって誕生日のプレゼントは大変重要なのでしよう。

( 当院 )



8

☆編集を終えて：

二〇二二年は、思いもよらない大雪に見舞われての締めくくりとなり、皆様それぞれに大変な年末だったことと思います。私は本山での会議に参加の後、人生初の「帰宅困難者」となりました。たまたま歯車が噛み合って動いている日常の有り難さに改めて気付かされたことでした。参加していた会議は、今年三月〜四月にかけてお勤まりになる慶讃法要後の宗門の方針やあり方について、長いスパンで適用される新たな指針を打ち出すべく立ち上げられた『行財政改革検討委員会』というものでした。役職・立場・性別・年齢・持ち合わせた知識等々、それぞれ異なる背景をもった方々の話をお聞きできたことはとてもよい機会でした。二〇二二年は、ひとつの事件をきっかけに、統一教会関連の問題が次々と明らかにされていき、外部からも内部からも問題提起の声が上がりました。『行財政改革検討委員会』の任期は二年。教義や信仰こそ違えども、人の生き方の主軸となる『宗教』を大事に生きていく者の一人として、今、何を期待され、何を大事なこととして伝えていくのか、狭い価値観の中だけの『正しさ』を握りしめることなく、自分自身の足元を確かめてみたいと思っております。

( 晴香 )

☆連絡先 浄敬寺  
 TEL:0257-22-2481  
 FAX:0257-22-2140  
 Mail : jyoukyouji222481@gmail.com  
 住職 tomi814@kisnet.or.jp  
 当院 minipapa@kisnet.or.jp  
 晴香 haru310@kisnet.or.jp



2022年3月6日  
 前住職 27回忌法要にて